

1 自己評価書

| 教育目標 | 笑顔で力いっぱい取り組む三間の子を育てる | | | | | |
|---|--|--|---|--|------|----|
| 基本方針 | 体験・感動・発見・交流 ささまざまな人との「かかわり」と「つながり」 | | | | | |
| 本年度重点目標 | 1 社会総がかりで取り組む教育の推進 2 安全・安心な教育環境の整備 3 確かな学力を育てる 4 互いの人権を尊重する教育の推進と児童の健全育成 5 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進 | | | | | |
| 評価項目 | 評価小項目 | 評価の観点 | 評価資料 | 評価 | 評価 | |
| 確かな学力の定着と向上 | ① | 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用 | 各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。 ・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施 | | 後期のみ | |
| | ② | 授業改善 | 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ・教師アンケート B ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート B | B | B | |
| | | | ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 ・教師アンケート B ・児童生徒アンケート B | B | B | |
| | | | 一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。 ・教師アンケート C ・保護者アンケート D ・児童生徒アンケート B | C | C | |
| | ③ | 家庭学習の充実 | 家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等) ・教師アンケート B ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート C | B | B | |
| | ④ | 読書活動の充実 | 読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。 ・教師アンケート B ・保護者アンケート D ・児童生徒アンケート B | B | C | |
| | ⑤ | ふるさと学習及びESDの推進 | 社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。 ・教師アンケート B ・保護者アンケート C ・児童生徒アンケート B | B | B | |
| | <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ iPadの活用によって、個別に支援が必要な児童の一人学びにつながった。 ○ コーディネーターに相談しやすく、いろいろと手立てを講じていただくので、見通しを持ったふるさと学習に取り組むことができた。 ○ 生活科や総合的な学習の時間に地域人材を活用したり、地域の施設の見学をしたりできた。 ○ EILSの活用も学校としての足並みがそろっているように思う。 ● 復習は行えたが、予習・振り返りが十分に行えなかった。また、振り返りのポイントを統一して取り組んでいきたい。 ● 授業でiPadの活用ができなかった。 ● 読書記録、家庭学習記録カードを十分に活用できなかった。 <p>(改善策等)</p> <p>授業については、予習・振り返りが十分に行えなかった面が見られた。振り返りの大切さは理解できているので、その振り返りの時間を確保できるように授業展開を工夫していきたい。そのために、iPadを効果的に活用した授業に取り組んでいきたいと考えている。また、eライブラリからすららドリルへの移行に対して、教職員が操作の仕方を熟知しておく必要があるため、夏季休業中に十分理解できなかった部分に関しては、研修を深めていきたい。</p> <p>読書活動を充実させるために、読書記録カードを有効に活用して、読書活動の充実を図りたい。</p> | | | | | |
| | 評価項目 | 評価小項目 | 評価の観点 | 評価資料 | 評価 | 評価 |
| | 生徒指導の充実 | ① | 規範意識の向上 | 規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。 ・教師アンケート B ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート B | B | B |
| ② | | 児童生徒の健全育成 | 児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 ・教師アンケート B ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート B | B | B | |
| | | | 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 ・教師アンケート B ・児童生徒アンケート B ・保護者アンケート B | B | B | |
| | | | いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。 ・教師アンケート B ・児童生徒アンケート B ・保護者アンケート C | B | B | |
| ③ | | 関係機関との連携 | スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。 ・教師アンケート B ・児童生徒アンケート B ・保護者アンケート C | B | B | |
| ④ | 自己肯定感等 | 自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 ・教師アンケート B ・児童アンケート B 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。 ・教師アンケート B ・児童アンケート B | B | B | | |
| <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小さな出来事もきちんと話を聞き、関係児童が納得のいく解決に努めた。 ○ ハート何でも相談員に多く関わっていただいた。それにより、児童が安心して学校生活を送ることができたように感じた。 ○ 児童間のトラブルについて、生徒指導主事に相談し、協力して早期解決につなげられた。 ○ 学校生活に関するアンケートを毎月行い、気になる部分は学級担任が丁寧に聞き取りを行うなどの対応ができた。 ● 児童の気になる点や課題については、共通理解することができているが、良い行いについても同様にしていきたい。 ● 関係機関との連携について、意識して取り組んでいきたい。 ● 児童の校内での過ごし方(安全面を含む)に課題を感じる。規範意識を高めるために教職員が児童の実態を知り、共通理解の中で取り組んでいきたい。 <p>(改善策等)</p> <p>規範意識の低い児童に対しては、全教職員で根気よく声掛けをしていきたい。学級でのルールづくり等を工夫して、みんなで守る意識を高めていきたい。生徒指導に関する諸問題に対しては、管理職の指示の下、生徒指導主事を中心とした体制で解決にあたっていきたい。1学期に、学校に入りづらい児童がいた。その児童に対して、どのように対応していくのかに十分に検討していきたい。</p> <p>縦割り班の集会活動を通して、自己肯定感や自己有用感を育むことを目指してきた。2学期も継続して行きたい。また、課題で挙げた「良い行い」を共通理解することで、教師の声掛けも変わってくると思う。それによっても自己肯定感や自己有用感を育てていきたい。</p> <p>特別支援学級と低学年の普通学級との交流・共同学習の場を設定して取り組んだ。2学期には、高学年との学習の場を設定していく。児童同士が他者理解を深めていけるような取組を継続する。</p> | | | | | | |

| 評価項目 | 評価小項目 | 評価の観点 | 評価資料 | 評価 | 評価 |
|---|---|--|------------------------------|--------|----|
| 働き方改革 | ① | ワーク・ライフ・バランス 時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。 | ・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用 | B B | B |
| | ② | 働きやすい環境づくり 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。 | ・教師アンケート | B | B |
| | ③ | 他の教職員のサポート体制の充実 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。 | ・教師アンケート | B | B |
| 地域との連携 | ① | 学校運営協議会の活性化 全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 | ・教師アンケート | B | B |
| | ② | 情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。 | ・教師アンケート | B | |
| | | | ・保護者アンケート ・地域アンケート | B B | |
| ③ | 来校・相談体制 来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。 | ・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート | B C B | B | |
| <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 初めての仕事が多く、勤務時間を超過することがあった。しかし、多くの先生と話すことができ充実した面もあった。 ○ SSSを積極的に活用することで、超過勤務時間を減らすことができ、早く帰宅することができた。 ○ 外部への提出物や他の教職員にもかかわる案件を優先して仕事を行った。 ○ 放課後の水泳指導に関しては、教職員間のサポート体制が整っているため、安心して業務を行うことができた。 ● 配付物が多い。配付する必要があるものなのかよく考えて、配付物を少なくする手立てが必要である。 ● 授業の関係で担任する学級・児童の指導ができなくなることが生じた。 <p>(改善策等)</p> <p>ほとんどの教職員が、ワーク・ライフ・バランスを意識しながら、日々の仕事に取り組んでいただいている。また、見通しを持って計画的に業務に取り組む教職員が増えている。しかし、月80時間を超える教職員がいることも事実なので、改善は難しい部分もあるが、働きがいを感じられるサポートを取り、働きやすい職場づくりを更に進めていきたい。日々の活動や行事などをスムーズに行っていくために、週2回の職員朝礼やミライム等で教職員の意識統一を図っていきたい。教職員間のサポート体制は整っており、自然と手助けできる状態にある。しかし、それに甘えてしまい、自分の業務であっても十分にできていないことも目にする。子どもたちや保護者、または地域の方が困ることがないように、自分の仕事をきちんと行い、必要に応じてサポートしていくようにしていきたい。</p> <p>来年度は、支援学級の担任が普通学級の授業を担当することは、配慮しながら検討していく。</p> <p>学校内の配付物だけでなく、学校外から配付を依頼される配付物が非常に多い。保護者に対する情報発信の仕方に関して、検討する必要があると思われる。印刷物を減らすことで業務改善につながり、さらにはSDGsの実践にもつながると考える。</p> | | | | | |

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満